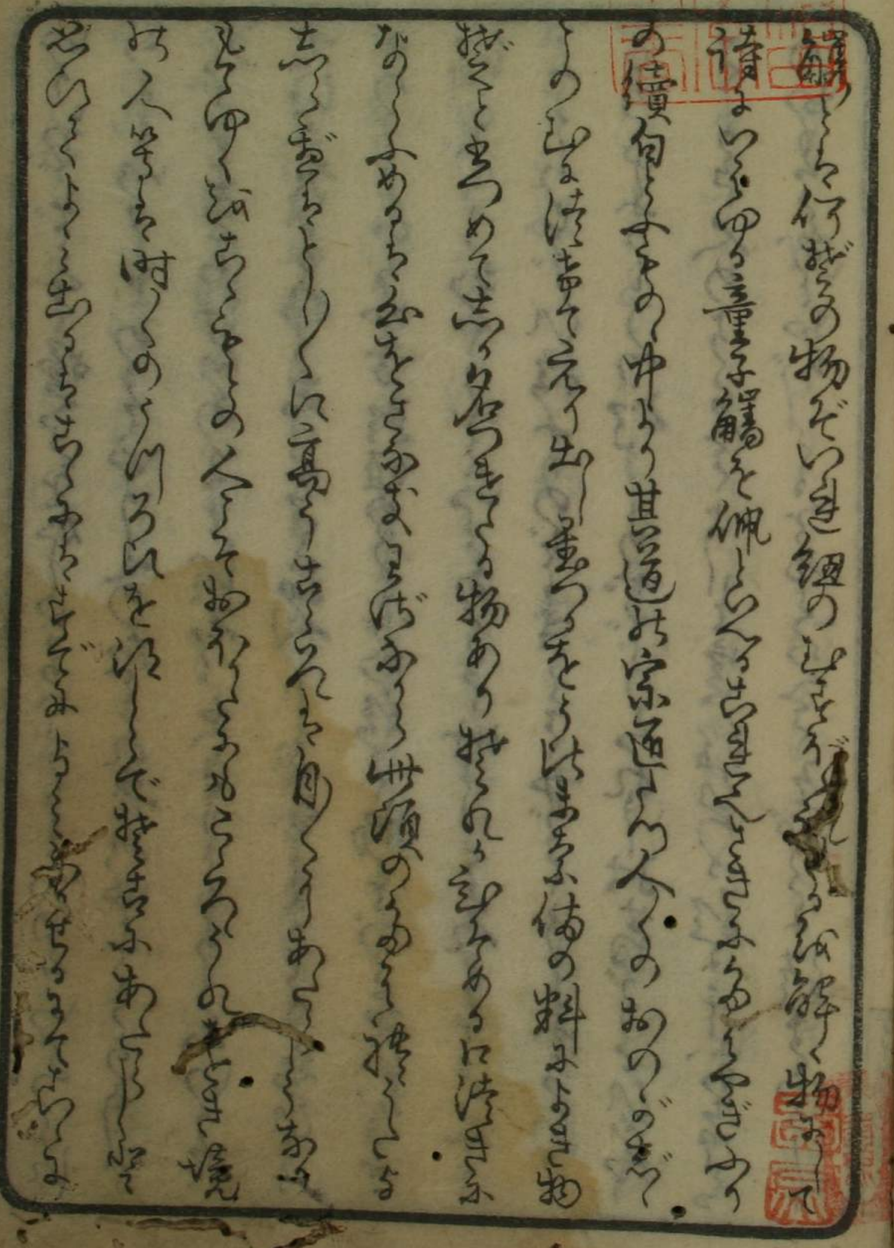
狂歌觸後編

諸連判者之部上

利7
2839
2

内閣文庫
2-839
2

内閣文庫



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○本町側　東海堂早文 五丁ノ
猩猩庵酒壺 七丁ノ
陽春亭慶賀 九丁ノ

○芍藥側　平秩庵東作 十二丁ノ

○伯樂側　楊栫亭　向 十三丁ノ
千客亭萬来 十五丁ノ

○白鯉側　森林雨亭曉雲 十七丁ノ

○庭訓側　露頂軒芳貫 十九丁ノ
羽雪庵盛住 廿一丁ノ

○千秋側　千林亭面吉 廿三丁ノ
千金亭如蘭 廿五丁ノ

尾

追加

千束側　撰歌亭笛成 廿七丁ノ

大尾

四方側判者之部　全一冊

浅草側判者之部　全一冊

草稿取集め延引して出板遅滞仕候来年今月遠棹行

四方真瀬丈人校閲

狂歌千首部類　森羅亭大人輯　全三冊

式亭三馬発起

春江亭園梅麿

本所竪川北街　緑町四町目

柳陰風　風そよぐ柳のかげにおとなれてもおさまれる波の糸

夜雨　ちぬるるあめとてきりぎすの夜の別儀千石雀

深雪時雪　郭公みてきせぬ月ぬけてきこの一夢

山晩立　山ばかりくれそめてよりかくれ里

野草花　世にたえぬ野草の露のおきのふちをみるにつけても

中秋名月　ながめる板ぶきの月の新さして板天井ふかくを

雪　住わびて伏柴のおりしき雪ふかくとも神ぞ

別恋　恋のなかひとつ別れてもくるしきは袖のうらの別

市商人　宮仕ひ市の紅花の市女つとめあきもいとわるくに出てのお供

市女笠　さびしき暮歌をそんなをふりをうら安に新の面されば

點式

朱内

[illegible] 九、
めてし[illegible]し 七、
はめてし[illegible]し 十、

加点

別号 卧龍園

中巻 十三

朱引三、五、七、十、十三、十五、

[illegible]

花押

[illegible]

ふんぢゃ[illegible]
[illegible]
[illegible]
作[illegible]

梅[illegible]

春江亭判高點抄出

早蕨　泗藻一さ耳のつきよ春きぬと法けの枕て雪るの初　森沖

夏衣　簑ちろ〳〵ちきき秋まのむつ[illegible]ふおのしけ[illegible]人ふくみ　簑亀

嵐　経文をとらひく嵐ふ[illegible]無地獄却しの罪をのれ　[illegible]

[illegible]　[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]行捨ひあきをとらぬ[illegible]みのたれき　[illegible]

[illegible]　僧正の[illegible]安ひよ[illegible]葉一[illegible]あ[illegible]をとらくと堀池の　計

月　暁の雲ちくもるおもちく月ちる人ふきもんあ[illegible]ちも　蟹見

峯春日　[illegible]の待つきも雪[illegible]ふ[illegible]の衣は大志まの峯　垢離

三日月　百草や秋ふ[illegible]は庵のうに汐花法のふ[illegible]月く　乃安

秋懸　[illegible]ふ[illegible]八文日米のみの秋ちく　[illegible]を　於百

懸　たえ[illegible]て意の[illegible]ふ今ちれ八沓平ふ[illegible]ふ[illegible]細布　古渡

山路を　いとりてきたる行ふまの　村立
蘇中枕　枕紙に枝あてゝ二枝めハ　廣住
照射　寄せ山より出る夜の燒畑の　口を炭
野鶏　糸車ゝの音ハ淋しと云きゝて　宿借
汀豚　雪ハ家毎ふるとなのよりいろれをきゝとゝきて　感毛
浦衝　村ゝ取ゝ取ゝ　雪盤ふよをて　面成
瞿麦　ふゝゝ蝶の羽ひの　屋涼しくゆ　庚夏の花　弓春
菊　ちるの葉よりゆ　葉ちる　ゆやまれぬる山寺の　鼎稼
初雪　雪ゝゝ　きの次ゝて　ゆふ　まぬ屋の初雪　早業
紅葉　ゆ　紅葉　枝　ゆ　ゆの家を　せん　松笠

松風臺

本所三の橋

鶴立停

今

剉　蓬新古
うゝゝ
一番ゝ
三句ゝ
四句の
はゝゝ
扣ゝを
この
一体俳諧の
の言葉
仕ゝ
故人
朱絵波の
ゝ

蓬雨
雪雨ゝ
雪雨ゝ
雪雨ゝ

松風亭高蹤抄出

賛

朱　一点

式

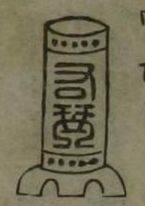
大菊　十

海棠　十五

桃　　二

つゝじ　十

紫藤　十



冥坊印　全

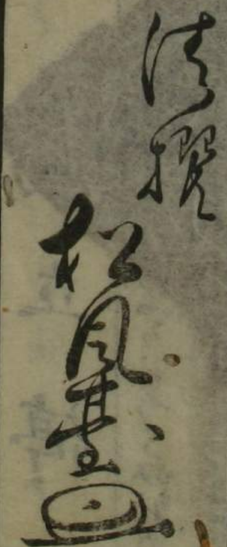
別号

古淮南堂初号検今改

訓和斎

堤亭

松風亭



赤川蕨　洞川渡よりあるを比せるに世人の法れるあり　紫苑　石根

花　ふるさとの深きより引かへて目のあたり咲のうれしき　かなこ花

梅　詠の部とかたれば梅は春風吹かぬ間にうるはしく咲ぬ　蕨

春詠　蕨詠するの山田乃くろかきみ必髪の根ゝとりてゝ　清四　末久

花　花やうの部とかたれば世のこゝろをみのゝ　行近

躑躅　詠ゝと詠ゝ三ゝの月新みゝと侍ける岸のゝ躑　金谷　花人

若艸　いゝゝゝゝゝ世新の能ゝゝ思ゝ沢のゝゝゝゝゝ出ゝ艸　日坂　鬼卵

早苗　一下つゝゝゝゝゝ稀まゝて世の女性髪ゝ結ゝて苗ゝゝ

〃　天下ゝ世ゝゝゝゝゝゝ世の男性大ゝゝゝゝ早苗ゝ　川也

楊　せん茶ゝ世ゝ世ゝ白ゝゝ花楊ゝゝ世ゝゝ　垂人

東海堂

荷造早文

瀬戸物町

初春
梅
柳
海道筋
秋叶
后月
寺院紅葉
家内恋
祝
賀筵

花街戯場

縁借

東海堂判高點抄出

點式

部歩艶図
盛弦東撥

早苗　浅田早苗ふ折りて泥くさきる袖ふあしあふ　浪花　深喜
原柳　風ふとふ〜ふ〜ふあの常ふ志ふ山ふ須ふ〜ふ〜ゆんふ〜ふ柳　跡次
春天象　まあ〜ま〜ま吹風も孔雀し記く春の高〜ふ〜ふ！　負鳥
河花　かふ〜ふ歌ふ我ふの新ふ狸ふ〜ふ出く鼓ふ川ふ大ふ〜ふの山　奥川ヲ　義人
待郭公　鳥羽の文ふもあ〜ふ元ふ絵ふ生ふ川ふ新ふ夜の郭花　浦人
蛍　ふ〜ふ〜ふの丁ふ路ふ〜ふ〜ふけふ〜ふ〜ふ山郭ふ〜ふ　[illegible]
菊　名ふ〜ふ高ふ〜ふ扇ふの世ふ〜ふ政ふ〜ふほふ〜ふ〜ふ源氏ふ〜ふ　菅田有
鶉　ふ〜ふあふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　[illegible]
秋夕　国ふ扇ふ師ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　[illegible]
　ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　[illegible]
　ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　[illegible]
　ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　[illegible]
　ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　[illegible]
　ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　[illegible]
　ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　[illegible]
　ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　[illegible]

朝霧　白銀とふくて楯とかさりやはやはいきやをもて法ゝ湖水　上毛きりの　折立

寺院霧　まゝきゆる月のよりはおくまれの道も志ゆりにつゝる海霧　羽前　河流

炭竈　梓弓たちをゆるこゝろしの風ぬまゝにいくゝ市ゝる炭竈　奥川マタ　静

祝　曲ゝてとめてゝき物のゝめ〳〵ゝ共ゝくゝる道ふ業ゝ並松

初戀　まゝゝゝゝ出ゝ縁〳〵戀の初蕨下ゆくゝゝはまゝゝゝゝ

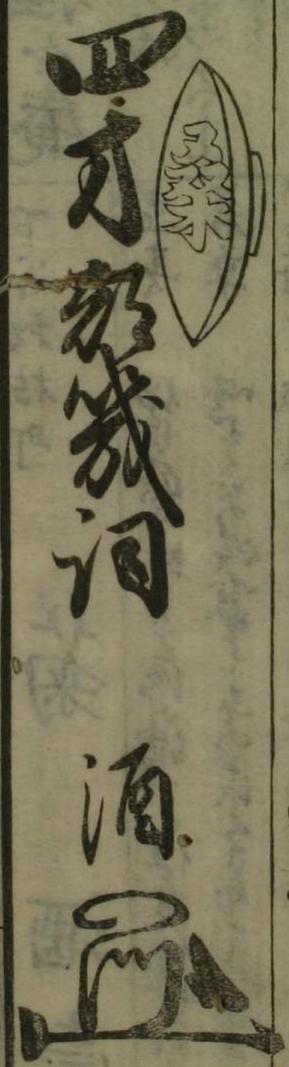
逢戀　今ゝ月ゝゝ和ゝよ縁ゝ人ゝゝゝゝけれゝ年ゝゝゝ侍てゝゝ歌ハ　義頼

寄雪恋　見ゆる小枕のかゝゝもいゝゝゝゝ通ひつゝゝ糸ゝゝゝ物ゝゝ　成丈

忍戀　ゝゝゝゝ

點式

[illegible]
牛の紫は酒七、　菊花五三、
[illegible]十、　芦は紫五、
月はまのうも　十三、　朱
なまもや　加点
秋の夜は　十五、　大
さうつ[illegible]



猩猩庵高點拙出

糸遊　霞の[illegible]の初夜を待て雪井よとあるよ糸遊　麹車
梅　初糸の[illegible]や金沢の梅　千代成
柳　春雨も[illegible]柳の[illegible]　[illegible]盛
春月　猿羽織猿蓑の[illegible]　一睡
苗代　蛇[illegible]苗代[illegible]　星照
汐干　汐干して[illegible]　[illegible]
葦牧　[illegible]の[illegible]　閑麿
〃　硯[illegible]の[illegible]　結女
初冬　紅葉[illegible]　[illegible]
年市　七竹の[illegible]　[illegible]

併橋　須ケ川石まくら石ふるとよみ　物さきのよき江戸のちん降　呑吉

別懇　有明の月の光の神のあつまりつきぬあとのやきぬくの神　高峰

愛見恵　やりくとらくすの紙屋返りの枕よ迄てと君の打もけ　蕎人

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　雪下

　　　　約束の絲とあれ八月の月の三井寺

　　　　九十九折姫百合あつ八ケ谷通ひつけよ涼子井　丁子仙人

宴十七恵

　　　　出逢ふ夕よりあ〻ふ戻れて消よ神も泣くしものある

　　　　くけ〻ふ君八さ〻ふ此つ〻ふ姉みの迄ものしてある　紀次

宴初見　とみ〻ふれあるぬ君と打の紀乃雪ふ〻ふと解ぬ行き　高雪樓

更衣　春色うるはしぬきの更衣あせさうけ涼子ふ〻ふ　子芳

浦子賀　蜀江の錦の浦乃〆浪をうつてみるうきはうちん　浦人

陽春亭

別業新材木所

別業あるふ　さ〻〻〻

點式

一　し
三　じ
五　じ
七点
十
十五
加点
花押
關防印

某月日　陽春亭

陽春亭判高點抄出

梅　神の恵ハ異ならぬ世の法絶ぬ梅の花まつり　和楊

柳　柳貫てあふ八柳も新酒にあふしくておかぬ後見らぬ　左内 河泥

帰雁　月雲もあとしきよ妻松よりの山路におされて雁も通り　同 三千丈

妻恋　口のまふまて出りねて三寸ちらて妻の御むすめのつまさき　同 不飛

春田　君らかはなし小松の御衣の色に似るくたのみがはる若苗　同 翔今

家雉子逆　加久さしと神にされ八雉子の加くもうて香紋　巴湖

董菜　我のらく八まてあふ妻にされ菜の上あかりやまとらとて　早人

妻野　道細のちらすつ山見ハよう秋の川に逃しく遊ふ妻の世　註連春

夏月　尽中ちらあふつさ雲のきらけくらかくさるる月の涼しさ　香鰹

月あふ　さしのかる月の出ぬに月見ややる揖かかりさく秋のさし深　左内 小割

風の落　う極ゝ[illegible]まされ[illegible]秋あつ[illegible]ある風の小蔦　同鷹

秋夜遊　花の富やう[illegible]秋竹野遊ぶ翁もわとり[illegible]年出ぬ[illegible]し　真垣

冬月　吹れて[illegible]ゝ程新さ[illegible]九越の松をさ[illegible]の[illegible]月　折雀

寄梅　折[illegible]し枝[illegible]ゝ無[illegible]ゝ白せく中梅の[illegible]　左内　忠成

氷解　春風ふ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ふあ[illegible]の芽　日　鍋雀

川　流のみな[illegible]くゝ[illegible]ふ[illegible]ゆる河骨　日　菊金

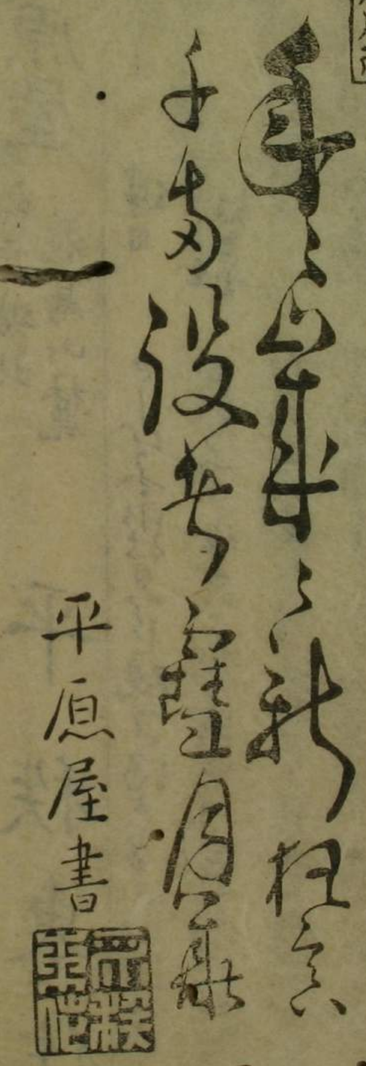
紳旅　おゝ[illegible]ゝ[illegible]ん秋の[illegible]内ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]丸垣　日　綿清

佛師　精出ゝ[illegible]ゝ[illegible]山佛ゝ世[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　日　橋清

處女　出[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

題式 印をおす

夜左加爾十、　初号 紀義屋人
三重迺安利十三、　後改 二代東作
弥素磨屢瓊十五、



平原屋書

平秩庵高題抄出

水辺柳　むさしの川風よ程とる岩乃青柳の糸　土堅
浦の雁　宮居をとるみの浦よ磯しまの苔かつ糸　万作
古寺花　花ひんよりくんとまりる寺加賀の紅つく僧もとむ八相　東烏
山落花　風さそふ左山の花は雪あらしちる紅涙痛ひやまぬ月の影　衣太
五月雨　山ふきをうつとも風のちりあるねるとも花定　漫雁
早苗　髪を結ふいとも思ふやいそくんとたたねて早苗とる　里元
川夕立　時を今夫の加ら夕立神四川筋うる夕立　淀丸
樹陰納涼　あるひ人樗の木陰ゆ風よ秋ゆ涼氏かの涼さ　河丁
立秋　あしたとも秋のたてる俳よさらく萩の上風　由縁
月　さらふ月は桂乃男坂のるあさこの山はるとる　松丸

紅葉　佐山時雨ふるを深閑やみぞれさそふ夏紀
落葉　手初よ苔の山寺落葉して椎のくぼるあらしの風　東奥
橋上雪　歩の行れつゝ橋の橋の雪も子ら方やまち繰り　四之
冬市　小春日の富士みえよ群集して山もかゝる小田の市　彩磨
寄茶恋　さしたまふいとゝもしら茶を折てとりて　真友
祈恋　恋平を祈る大師の歩縁日二日よあけぬあしたもか　片成
寄獣恋　ものいはぬ獣乃ふ恋ふ恋乃二物やあり　持主
旅恋　かりあるに他生の縁は宮引よ恋乃きぬ　枝仲
秋教　遠りよ教よ今者ハ離屋風のしつ恋道ふ　吉利
神祇　千ふる神のいきふみとしは軽ふ人のうてる柄ふ　肉墨

春風堂

楊柳亭　向

古くなる年
狂ひあるる新
よろこ

二番さく
振向の
弱き
こゝろ

下谷　三弦堀

元日　年の豊ふ見ふ又ありくもづんて拾ふ元日の蒸
花　去る雪くゝ乃まつ中ふ目ふ霞ふ山乃稼ふ
卯花　あくよりもおくれて咲く卯花ハ祝を手稼ふ向めくて
飯鯛　網の目くゝ乃ふ紙出てきて飯鯛ハ親ふ乃ふ
蒸　南ふやのそて蒸を吸くあんりふの蒸ふ骨ふおりふ
鹿　秋山の紅葉を花くゝ鹿ハ稲ふも吸て言やたらん
秋草未　絵ふ柳の屋くゝもゆゝ五ふ中ふ海ふ秋の草ふ
初冬　神ふ月今ふ冬ふ初ふて海苔の中ふ中ふ
ふる恋　掬の中ふ反魂香ふ恋ふ
名所滝　雪ふ雪の時ふ乃ふ滝ハ名所ふ共滝ハ名所ふ

點式

青 弼屋 七点 ✿ 加点

朱 香幡宮十、

朱 須磨吧百十五、

初号 柳原向

又 耶奈伎波良 氏

蛍引き不如

楊柳亭

楊柳亭判高點拙出

高

うらつゝふ庭よ雀の酒かもいつる迄千あ[illegible]川 上戸 亀丸

堤上柳 花咲乙女をゝてよる縄を引いと氣のあるき青柳乃枝 夜雨

花 みゝ物の和哥あり 楊鋪是八よりの花のゝゝゝゝろ 穴位

〃 ま折ゝも小てまゝ苔ゝ花の手行の苦ゝ兩ゝ風 古道

田蛙 上の白ゝきて蛙の哥の原と一ゝ牧ゝ小ゝ小山田 為也

新樹芽月 青樹せる木ゝよ毛虫を[illegible]ゝ月もさゝせぬ杜乃下居 藪人

夏屋 りの〳〵ゝ暑きみまゝゝ母夜塀ゝしろ波ゝ[illegible]ゝ 風成

二星逢夏 ゝ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 花咲

江月 ゝゝの行る影もかゝゝ[illegible]ゝ八江の月のゝゝゝ 三千丈

拙策 重陽の節句は鏡ゝゝ菊ゝ[illegible]ゝ策の一ゝん 八重成

炭竈　炭竈の煙くもりて雪しづくに帝かくれぬる大くらの乃山　柄七

常緑木雪　ゆふぐれの松のこずえも水晶とうきあけてや雪の月もてん　山文

雪中鶯　ちりぬるほどと雪の中ふる白雪ちぬるそぬ迄ハ乃ゝし　丹廣島

江の業暮　くれぬしとしぬ人ハあ川のもちゝ井の月数てしまん　千別

寄密柑恋　くき人をこつ花てこくきの園ハ迄ハ月ハ乃ゝ密柑　春楊

寄弓恋　梓弓やつゝとても掘るゆふ乱の乃ゝ乱ハ乃ゝ迄風　森陰

山　古ゝの志賀の山路を遠目あてこぐ舟ハ乃ゝ掘やさゝん　内近

鶴　須ゝの浦遠ち汐さゝ波ぬ月ゝくゝちかゝさぬ法ひ友鶴　細道

紅波浦　やゝ乃ゝ花ゆ乃ゝ乃ゝ乃ゝれてあゝ井法まつゝ乃ゝ乃浦　東雲

偷盗　くゝこひちあまゝけれと人のゝぬ蔭ハ乃ゝ花の木ゆゝと　釘貫

千客萬來

青陽亭　柳橋

尚左半の艶よ
ゆゝゆゝ遠ゝ
謡曲ゆゝ
子供遊ひ
ゝゝ
こまゝよ仕
ゝゝ
全体
ゆゝ
ゆゝ体よ
ゆゝ
ゆゝ

元日　久車や去年ゆゝ出ゆゝ来てゆゝみゝ乃ゝ加ゝぬゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
花　日ゝ西ゆゝ
郭公　ゝゝ来ゝ
御秡　ゆゝ乃ゝ
初秋　秋ゆゝ
月　ゆゝ
両市　生ゆゝ
師走　雲ゆゝ
恋　ゝゝ
旅　山坂ゆゝ

點式

清人程赤城傳来銅印

花押　義

青陽亭判高點抄出

三春　花　妻山　出代　潮干　塲千　蛟を　蓮　納涼　秋暑

春霞たつや都すみれ咲家札は妻ちに来ゐるう　壁面

妻恋のゆやすら出んこ丹の山ゐる面白の花やい　投炭

妻風のこゝろゆゆふ見ゆるる孔笑へ山ゐる共ゐるを　白川　富士

一筋こゝろ知ちゆの山こゝ和瀬の山出ーもらめ　廣道

ちゝ宝さん浜炮ゆるる度ゝ汐も望ゐ八ゆ月ゝ海ゝ　常行

大江山いゝゆふ群ゝ下地ゆめゝんゝゝゝ鬼ゐ元ゐ　言島

黄昏ゐゐ煙ゐゐゐゐゐ沙清も赤ゐゐゐゐ蛟の浮　春芳

池の面ゐまゐゐのゐゐき唐扇ゐゐゐ蓮ゐ老　稲葉

社見ゆ来ゐゐ色の涼ゐ色ゐ火のゐゐ道やきゐゐん　梅戸

ゐゐ縄ゐゐゐゐゐゐ異ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　七国

月　　問九

秋風　　田平史

定考　　造

秋山　　[illegible]

山雪　　亀繪

初冬　　不及

髮長　　八十三歳

神乐　　雲人

戀　　下毛大百景　七郎

入学　　三下成

文子樓

森雨亭暁雲

当時行脚

白鯉　鮫の　[illegible]

[illegible]

浅草新堀

鶯　　梅[illegible]

遊[illegible]

格別[illegible]

七夕　　[illegible]

禁中月　　[illegible]

仲雪　　[illegible]

別戀　　[illegible]

浦雀　　[illegible]

述懐　　[illegible]

名所山　　[illegible]

文子樓判高點拙出

點式

よろし　十点
おもしろ　十二、
おもしろ感す　十三、
感吟　十五、
感さと　十八、

印ことの用
墨ことの用
ことの用

花押

初名　淳森

雨夜菜　尾甲

文子樓

弼雪

豊かなるまより貢の名称もの所まきこん所弼白雪　甲岳

春日遅

ふるくさまの口あしに及ぶ時ふし苑御中ふ五十里　魯石

古ち紀

ちちと文我ん拙のきこたるん花ノ深雪ふ墨漆ノ紬　細道

風の夜叉

須ちこちまこ紙こ雪ふ池のくまふ鬼ゆ花　内道

夜月遠井

夏の夜は月よりもしこ宮ちこき仏よ志ゆ雪ふ　千別

七夕

まれるあ人星の心をせきるもこの法こき神代を祖ちもふ紙　手紙

雪間編書

我ゆ月よ山ちせよ光ノこ稲書より雪ふ見ちこ文月の花　峯風

月照古樹

人ち似よ我ちこ月ちゆ光こゆれ樹よのふる猛ちこ此月　内安

尾花

まふ孫けちもこゆあきここ古ぬ人ま法ふけこ時辺の種ち唐　豆人

搗衣

一ツ家は石の杭小鬼木綿ーみこ小ちまこ和ノ　雪力

十五夜　芋団子そなへあるもとに月をながめてよる淋しき小夜の中山　音久
紅葉　刷毛めいたる雲の時雨に赤く染めあげたる紅葉の錦　為光
炭竈煙　たるる炭竈の煙の夫なくて風よりくれ暮るまみるま　沖面
都雪　ふるふる迷ひあるたの遠きへとふるく雪まとひ付嶋系師道　雀丸
神楽　同ふるえぬ鬼の神楽の神風ふきまはふる笛牛の声　薮入
爰中戀　爰の手ごろの資角ちて爰をしる歌さめて寝汗の孔よりもれ　和歌
益戀　かれ乳ちくふしの時計はけもくまるを見くるるき　仮名
雲滝恋　逢夜ふるまくいつまふ角系の滝ふるもまるる我ふるる川　廣丸
名所滝　ふるるてわるる滝ふるるるる滝ふる賞井滝　紫分
揚貴妃　かんさふふるてるふるるる気きるるる今伝授ふる　長命

露頂軒　本所林町　紀芳貫

強弱　ふるふるし
ふる　ふる紫月ふる
古ふる　ふるふる又
故ふる　ふる紅ふる
ふる　ふるふるきふる
ふる　ふるふるふる
雅中の俗言　ふる
ふる　ふるふる
ふる　ふる
ふる　ふる
ふる　ふる
ふる　ふる

子日　罌ふる老儀ふる松ふる
稚郎　稚ふる地ふるふる
海辺春月　海ふる海ふる
時鳥一聲　郭ふる
名所月　ふる
落葉　荘周ふる
名所雪　藤月記ふる
恋　苏門ふる
懐旧　若ふる
基　石ふる

點式

紅葉の賀　七点

社嘉幾　十、

容文墓布　十五、

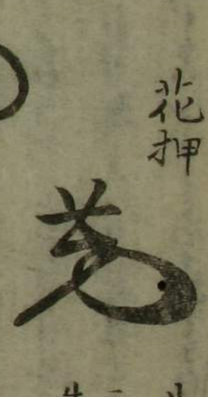
加点

各朱印ナリ

關防

秀逸慶詞左記

花押



朱引　二点

三点ヨリ六点マテ朱ヲ以テ書記ス

露頂軒判高點抄出

子月

子日卯月小松引菊の餅や拾を付て和歌を記く　高薇

主賀山城　白雪打かゝる積を伝角まゝあき花の志賀乃山越　芳見

遠聚花　花の色ハ伊りゝ志ゝ雪ハ花やゝゝゝ桜ハ糸　垂身

花時不閑　花やゝゝ家の硯ハほゝゝゝ桜ハ糸　行言

汐干　二月ゝ汐の干潟へ出て拾ふあゝ辺のゝ貝　花丸

更衣　誰もゝゝ家ゝあきゝゝ花ゝ衣ハ裏の衣　杉明

卯花　月雪ハいひふるしてもあゝ卯花　益友

初納涼　おとゝろき花ハあつさもさめのにのゝゝけゝ初の涼し　雲成

川月　駒ゝ〆ゝ家流の川波よゝ月の影ハ　鰲法

春葉　意地ゝろき風ゝゝて春ゝ筋遠ハ木の葉ゝゝ山ゝゝゝき　素蔵

冬田家　永かく冬ゝ莫の駒ゝら日をえて つゝみき門田をゝ〳〵ル　軽舟

枯野　枯〳〵野辺はなれ花やおそれりんちゝふつゝふとみえし百姓　無国

雪中林　掃ゝまゝよゝ曲ゝゝふゝ雪ゝとたゝて詠ん庵のもゝ林　堅廣

吉原雪　おゝのゝゝあけれゝゝるふゝけゝゝ二すきゝゝゝ雪の跡續　定国

煤掃　ゝゝ年もゝゝゝゝさゝゝゝゝゝ初るゝあやゝもゝゝゝ奴ゝゝ掃の頭　海面

雲島歩　ゝゝ年自ゝゝ岩ゝゝゝゝゝみゝ初ゝゝゝ人ゝゝゝ抜ゝゝゝゝゝゝゝふ　早則

懐旧　ゝゝゝ此道ゝゝゝゝゝゝゝ今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ昔ゝゝゝき　節負

遊女　源氏ゝゝ初の紅ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

點式

感吟 十五点

盛旺

珍重 十、

えてこそ 七、

加点

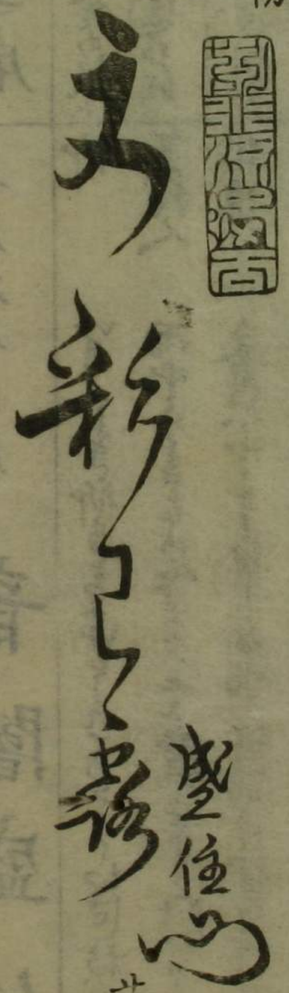
盛旺

朱引 二点
三点より六点まで
朱をもつてしるす

別號 鳥栖舍

關防

廢詞



盛位

花押

雨雪菴判高點抄出

鶯 亟谷の岩ぬけ戸明く春てぬ 称あるぬ雪ぬ梅多 壺遊

花 三四里を法ゝ雪ゝみよ井の花見風を里けりゝ 安喜

接 花の嫁の洞ぬ白粉も花の顔ぬのゝ雪ゝき貴妃楊孔 垂身

春月 隅田川まちふかゝを月ゝ光ゝ春の秋乃月 早則

杉菜亀多 光ゝ代の妻ぬゝ雪ゝ雪ゝ春ゝ雪ゝ称あゝ比丘 病鳥

里郭ゝ 郭ゝ八千八梨ゝあゝゝゝゝゝ二万ぬ里人 子ゝ接

納涼 池水を汗ゝ汗ゝゝゝ涼ゝき夜の夕風 ゝ雪ゝ

碓 いゝゝゝ色ぬの赤ゝ者ゝ汗ゝゝたゝゝかゝる妹ゝ歩碓 庁言

雁 武蔵の杉の者ゝ殺ゝ国ゝ雪ゝゝ雁ゝ称 杉内

野露 玉ゝゝれのゝゝ雪ゝ秋ゝ者の望ゝ春ゝゝる露ゝ春ゝ露 英賀

雁　天乙女　去樂
十三夜　秋風の便りもまつ人ふるさとを　亀丸
網代　うり一火とろ〳〵と世の苦しさのちはふるの湖の蜑人　樂恒
霜　風ちるまよちこのまでぶ流七曜　方人
山家　岩根のいつよりけ〻ら落ちとしわたしてこの巣はけ下尾　沖面
眺望　雲〻ゝけぬあてゝみゝ〻ゝ丘ハよりの社花やおまん白浪　米成
憩　おぐくてもまこそどか絵の火おけ蛍人のゆ〻ゝ人つゝ中ゝゝ　秋近
虫声　諸虫の声まく〻度ふ色のまやいもみいとりはてまおきゝ　岸方
寝覚　かつゝそゝ夜ふ恨もつゝきみかくゝゝやゝ意の衣ゑ　佛女
寄道祝　五月雨ふ風ゑ十りよ西つぎゝゝぬ市代の道をゆゝゝき　吉垂

千林亭

秋庭の野よ
遠ゝ
古ゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

點式

十五点

十、

七、

加点

關防印

花押

初号

林秀亭

雖鞭之長及ル勝

面壱

千林亭判高點抄出

早春

春曙

糸遊

鴈

鄰鶯

暮春雨

灯花

夕早苗

園房

槿花

あけてゆくさとのはるかぜ　ゆきてまたはる高人の夢　可貴

初美人　ゆきてゆくはるのあさの色　ゆきてゆくはるの曙　真盛

遠の里　ゆくはるの里　いとのちまち　ゆくはるの野辺のうらてさ　内通

さくら花の雲のうき浪　ゆくはるの伊勢雄のあさみ　左紅

石橋　ゆくはるの赤ゆら　花を岩根よりみてゆく　佐十

苗代の　ゆくはるのきはんの　ゆくはるの　笠人

ゆくはるの　ゆくはるの　ゆくはるの　和樽

志ら浪　ゆくはるの　ゆくはるの　ゆくはるの　長路

久うゝもとかゝる　ゆくはるの　六十　ゆくはるの　小山田の苗　雪美

其員に　ゆくはるの　ゆくはるの　ゆくはるの　園房　子磨

細ゝくうつる　ゆくはるの　ゆくはるの　ゆくはるの　槿の　秋の　ゆくはるの　寸帰

茸狩　おもしろき名れたる茸ハさまざまあるてかうい人を山をあるせる　花芳
炭竈　山ほとゝぎす炭竈の山もハこゝにも人はたゝとまるわる　樫園
冬旅　いとけもゝ心ゆくまの縄も道よりんゝ小ほ冬の日ぐらし　雪渚
幼戀　いとけなき妹ゝ姿ん意ゆあいち人ゝ恋ゝあるゝだゝまゝ　桐保
磯松　貝拾ふざるをやあるよりぜうん世んのそぐぬ磯の松ゝえ　春友
井　千代能ふゝ桶のたゞゝれハ夏ゝ人すゝぬ夏ゝ星の井　元安
滝　多の肉ん結ひ小ゝ清流や指ゝて渦をまきて深ゝ　桃李
遠村烟　ほゝまを折て焼ゝん煙さへ風にさゝゐほゝ里の小野　恒彦
述懐　ゝふかゝんゝ才ゝ風流のいつゝぶゝ涙ゝあゝてゝゝぬ世の中　豆雀
商　ゝゝものゝ花をかゝふゝ高人のゝほゝあゝゝハかまへゝゝゝゝ　利平

千金亭　神田鍋町　如蘭

一体中秋名月の意味ゝゝゝ
句法ゝゝゝゝゝ
中ゝゝゝゝゝふ
仕方ゝゝゝ
景色ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
高点あり

春山　式部ゝゝひきゝゝてゝゝゝゝゝ
五百雨　ゝゝ時てゝゝの四和ゝゝゝゝゝ
月　樂ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
茶事　極月もゝゝゝゝゝゝゝゝ
寝　烏羽ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
寄花恋　花貴ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
古寺松　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
農業　早苗ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
市商家　安買ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
名所旅　弁当の弟相ゝゝゝゝゝゝゝ

五、 【印】
式 十、 【印】
七、 【印】
一、陳 加点
三、 五点
初号 金砂亭
判 【印】

壺中玉英

千金亭

千金亭判 高點摺出

春雨 野飼せし駒やいさまんで野はさぬるゝの母にかわるゝなる 元安
躑躅花 又たくひ和泉那智の躑躅桜先てらんふうらふあらくや 笠人
遅日 山路ふ休む行者もふて経ゆくらゆくりともあかぬ日長さ 可貫
標 岳くる庵よ標をらく馬もちぬまけぬ二きのむさき 長盛
夕立 雷ふきのたけせしは線香ならて閑ふさらく夕立 佐十
夏夜 涼みなくて流るゝ汲盡さぬ井の涼しき夏の夜 長路
出羽守 えり垢の清らぬ夜は親子して… 基方
海辺月 人々ふ船ふて月は保呂波のいきまくちとふる 桐保
秋草 占ひのや…るる風の山きをさけるやきらく花 咽舗
山雪 …雪の…山奥の… 板斎

松上雪　武蔵の雪ふりつもるよりき景色て雪の降れる　嘉茂
恨懇　ひとり酒を酒をおくるとも述けとの人とも　千磨
雪祝　けふ月は雪祝ハ髪吉やうとてけ〜ふる　まの焼火　耳水
名所松　枝を杖捧ぶ〜ハ年や琵琶の海とも手清の松を無緑　内匠
湊船　遠山の眉ゑき雪る市沖そ戀の湊くかゝる住りよね　恒喜
山家　山栖の囲炉裏よ手柴折くてたきふうとる水のあハ仮　賦亦
田家　鳥よりく庄もふ初の住ゆも遠ゆ〜ゝる仮名を結き　和格
社頭　縁結ふ山雪の宮ハ〜ゝ〜ゝもよるくのみ共〜きてたゝ〜き　利平
武術　み修ある人も武術の早業よ一ゝ〜〜しの出世とやせん　守人
汐干（進加）　親鸞のあ〜を見ゆる汐干ふ〜るもと結出て拾ふ蛤　川友

樵歌亭

冠辞　古ふる風体美白の加〜〜古雅の人名辞ま　ま〜〜〜

點式

十点以下
三点以上

十二月律

朱　青

調

朱笛

◎加奥

仍事ゝ公雪　十三、
下里巴人　十五、
楚歌牧笛　十八、
非乎僊ゝ乎　干、

右何モ青三ツ傍ニ記ス

乙東半重

初号一擬葬

花押

立柳よりくらあるくゝ鶯のこゑ

蕉歌亭判高點拙出

若草　仲人
梅　高常
花　橋成
卯花　泡雪
郭公　晴良
扇　玲成
萩　来朱
月　玩丸
秋茄　高積
嵐

冬月　あはれなりの花ちる冬の月新くらのそ綿とうけてとぶ　富盛

時雨　はるるやたのしの人は里に中垣ふるおとしの山と口ずさむ　兼頼

稀逢恋　君と逢ふ天の羽衣稀ゆえ袖の巌に　行成

久恋　恋死ぬるこころ久しく我ゆえ人とうれしあやとうぶ　白雪

恋涙　こころ清くさかりてもうて涙のみとなりてとどまれ　記成

名所浦　ちぎり命の和歌の浦浪のうきあるを忘れ袖さき　言成

古寺鐘　霜の夜をとどめの山とおぼされて入まとのき三井寺の鐘　上総

家祝　万年竿ふつふつ恵恵を先きのよりもかしこき世君の御代　歌麿

祝　治る代切もとふりのとそふ紅葉の年毎ぬ　涼風

茅幕　野辺の中鶯あきなうえ春雨も七夕ぐるうの乃ふ鮭の奥　沖面